

1. 評価結果概要表

平成20年 7月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0172300121		
法人名	神恵内村		
事業所名	高齢者グループホーム かもめの家		
所在地	古宇郡神恵内村大字神恵内10番地 (電話) 0135-76-5011		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年5月19日	評価確定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】(20年4月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	10	年	9	月	1	日
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9人			
職員数	8	人	常勤	1	人,	非常勤	7人, 常勤換算
	4.4人						

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000	円	(4~9号室12,000円)
その他の経費(月額)	光熱水費、日用品 9,500円(10~3月日額100円加算)		
敷金	有()	円	無
保証金の有無(入居一時金含む)	有()	円	有りの場合償却の有無
	無		有 / 無
食材料費	朝食	260	円
	夕食	260	円
	または1日当たり	円	
昼食	260円		
おやつ	円		

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均	84.8歳	最低	74歳	最高
					93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神恵内村立神恵内診療所、神恵内村歯科診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は村営のグループホームとして「信頼、安心、交流」の3本柱を理念に掲げ平成10年に開設し、当初より地域住民との交流を重要視し、地域密着型サービスの役割に根ざしたサービス提供している。病棟を改築した建物で、明るく家庭的で清潔感ある事業所である。階下の村営診療所との密接な連携や関連施設の支援体制も充実しており、利用者の安心感ある豊かな暮らしをサポートしている。管理者を中心に全職員の良好な協働で、意識統一された個別性の高いサービスの追求、またターミナルケアの実践などにより、家族の信頼も厚い。老人学級やデイサービスに参加し、地元の温泉、果物狩りなど積極的な外出支援を行ない、笑いのある暮らしが伺える事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では11項目の改善点が示されましたが、殆どどの項目に関しての取り組みが進められている。通信の発行頻度を増やし、より丁寧な情報発信の実施、運営者間での会議設定・開催、利用者の希望に応じた入浴支援など、積極的にサービスの改善、質の向上に努めてきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回評価を踏まえて現状のサービスの点検、検討を実施し、今後の取り組み課題の明確化に繋げてきており、事業所全体でケアサービスの充実に向け意欲的に取り組む姿勢が伺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は現在までに2回開催され、事業所の概要説明、地域との交流、要望事項などについて協議を行なっている。今後は協力メンバー(社会福祉協議会職員、民生委員など)を拡大し、会議の定期的な開催を働きかけ、多様な意見を受けて双方向の話し合いを重ね、よりサービスの向上に活かす取り組みを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や内・外部の苦情相談窓口の明示、案内を実施している。利用者の日々の様子や健康状態など個別の情報発信に努めると共に、常に率直な意見等の表出を促す関わりを行なっている。表出された意見なども受け止め対応し、事業所の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元住民には当事業所の存在が徐々に浸透しつつある。村教育委員会主催の老人学級や関連施設のデイサービス、また地元の祭りなどにも参加し、地域住民との交流に努めている。散歩時の語らいや車椅子などの手助け、また事業所への来訪もあり、地域の中での事業所の基盤作りに取り組み、今後さらにボランティアの導入なども検討されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成した基本理念には「信頼、安心、交流」の3本柱を掲げ、利用者を生活の主体とし、家庭的な環境の中で地域社会との関係性を重視し、地域密着型サービスの役割に根ざした理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内の見やすい場所に掲示されている。職員採用時での説明や日常の申し送り、カンファレンス等で話し合い、職員間での理念の共有が図られており、その具現化に向け、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	村教育委員会主催の老人学級や関連施設のデイサービス、また地域の沖揚げ祭りなどにも参加し、地域の人との交流の機会を得ている。散歩時には地元住民の声かけや、事業所への来訪など、地域の中での事業所の基盤作りに積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては、会議の中で話し合い、全職員で取り組んでいる。前回評価をふり返り、現状のケアサービスの点検、検討を行い、今後の取り組み事項の明確化に繋げており、サービスの質の向上に意欲的に取り組む姿勢が伺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに2回の運営推進会議が開催されている。事業所の概要、地域との交流、また要望事項などをテーマに協議されているが、事業所の運営に十分に活かすまでには至っていない。	○	地域性もあり、メンバーの日程調整などの難しさもあるが、今後さらに協力メンバーの拡大や定期的開催に積極的に取り組み、多様な意見を頂きながら、サービスの向上に活かす事を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所は、村営のグループホームであり、自治体の担当者との連携は蜜に取られている。事業所運営に関しては、村、委託法人、事業所の3者の協働は不可欠であり、話し合いの場を設定し、共に良質なケアサービス提供に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、利用者の日々の暮らしぶりや身体状況などを報告し、定期的な金銭管理も報告がされている。2ヶ月に1度、日常の様子や行事、新職員の紹介などが掲載された通信を発行している。また個人別に写真や近況報告も送付され、利用者個々に合わせて積極的な情報発信を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約書に内部及び外部の苦情相談窓口が明示され、事業所内に意見箱が設置されている。家族からの苦情は出されていないが、面会時また電話連絡時などでも、話し易い雰囲気作りに努め、意見、要望などの表出を常に促している。家族から出された要望などは検討し、事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連施設との職員異動は多くはないが、職員の交替の際には、新人職員のフォロー体制として職員配置を実施し、利用者への与える影響に配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域特性もあり外部研修の機会は多くないが、関連施設の勉強会、他地域の病院、保健所などの研修の機会を捉え参加している。毎月、担当職員を決めて介護、医療、メンタルヘルスなど幅広いテーマでの抄読会を開催し、職員自らの学ぶ意欲を促進し、OJTを活かした学習機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村の同業者とは、管理者同士の情報交換が蜜に行なわれている。職員間での交流もあり、今後も双方の日程調整を行ない、見学交流会の実施が話し合われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在利用者の殆んどは包括支援センターを通して施設からの入居であるが、利用開始に際しては、施設に出向き本人との面談を行ない、馴染みの関係作りに努めている。入居後は本人の気持ちを考慮して、以前の施設との交流を保ちながら、徐々に場の雰囲気に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、畑作りや山菜の調理法など、日々の生活の中で、利用者一人ひとりの得意分野や長年の経験の中から教わる場面も多い。また本人、家族が望む終末期の支援においては全職員でのターミナルケアの実践に取り組み、学び支えあい、一緒に過ごす者として喜怒哀楽を共にした信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントのほか、日常会話や表情、行動などから利用者一人ひとりの意向を把握し、本人の望む自由な暮らしの検討に努めている。日々の個人記録にも具体的記入がされており、職員全員での共有化が図られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向やより良く暮らすための課題を見極め、個別の介護記録を基に利用者本位の状況を検討している。家族の意向、医師の指示、アドバイスなども考慮し、個別性の高い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスでは全利用者について意見交換を実施し、2ヶ月毎に評価票を作成、一人ひとりの実情に対応した見直しに取り組んでいる。利用者の状態変化時はもとよりその兆しも見逃さず、予防的対応の為の検討、見直しも実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診送迎、他施設のデイサービスの利用、家族の宿泊対応など、その時々々の本人、家族の状況や要望に応じて事業所の多機能性を活かした柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の階下が村営診療所であり、緊急時や夜間においても密接な協力、連携が取れている。また必要時には歯科医の訪問診療、関連施設の看護師などのバックアップ体制が整っており、利用者一人ひとりのニーズに合わせた健康管理、医療支援に取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では、すでにターミナルケアに取り組んできている。重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族の意向を踏まえ、医療機関も含めての対応の共有が図られている。利用者の状態変化には、その都度繰り返し話し合いを行い、関係者間の統一した方針により支援に繋げている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する同意を得ており、記録などの保管、管理には注意を払っている。職員の利用者に対する言動には温かな気遣いが見受けられ、誇りやプライバシーへの配慮が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな生活の流れはあるが、その時の本人の状況や意思を尊重し、話しかけながらの支援を行なっている。お手伝いや、散歩など一人ひとりの自由なペースでの暮らしの支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量や得意分野に応じて役割を分担し、準備や食器洗い、後片付けなどを職員と一緒にやっている。時には利用者の希望でメニューを変更し、菜園での収穫野菜が食卓に登ることもあり、職員は利用者と同じ食事を取りながら、季節を味わい会話を楽しみ、ゆっくりと食事を取れる場面の工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日設定はあるが、利用者の希望や状況により柔軟に対応し毎日の入浴も可能である。身体的負担の大きい利用者には関連施設でのリフト浴の支援など個々の状況に応じた入浴に配慮されている。また入浴拒否の場合は言葉掛けの工夫や気の合う人との入浴を促すなど、本人の清潔と気持ちの良い入浴支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの現状の力量や楽しみごとを把握し、老人学級やデイサービスへの参加を支援している。日常生活では家事仕事や、野菜作り、ちぎり絵や粘土細工など、その時々希望や習慣などに沿い本人の張りや喜びある暮らしの提供に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑作りや季節の遷ろいを楽しむ散歩、買い物など出来る限り個々の希望や状況に沿っての外出支援を行なっている。リフト車両を借り受け、地元の温泉や昔馴染みの玩具館などにも出かけ、利用者の気分転換や、戸外で楽しめる機会作りに積極的に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物構造上、危険防止のため、家族の了解を得て日中も施錠している時もある。外出傾向の利用者もおり、職員の目視による動向把握や見守りのほか、利用者と共に外出し、安全面での配慮をしながら、自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回地元の消防署の協力で、日中帯及び夜間を想定した避難訓練、電話連絡網の確認を実施している。周辺民家は少なく災害時における協力体制は、関連施設の職員や村役場職員などの連絡網が作成されており、連携、協力が得られるよう働きかけている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録には食事、水分摂取量を記載し、職員間で利用者個々の情報を共有すると共に、体重増加なども含め健康面で医師の指導による食事調整を実施している。食材も個々に応じて食べやすい大きさに調理され、栄養士のアドバイスを得て献立作成に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	低いカウンターで仕切られた台所からは食欲をそそる調理の匂いが漂い、手製のちぎり絵の壁飾り、また窓越しの木々の緑と、利用者が集う居間は、生活感、季節感ある家庭的な空間になっている。小上がりスペースや廊下にはベンチが設置され、築年数は経っているが事業所全体が明るく、清潔感ある居心地の良い居場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、備え付けのベッドや小チェストなどが設置されている。利用者が使い慣れた鏡台や家具、電化製品などが持ち込まれ、自由に配置されている。家族の写真や生花、手作りの作品なども飾られており、思い思いの安心の場としての配慮がされている。		

※  は、重点項目。